

種名	オ イ カ ワ <u>Zacco platypus</u> 
分類	コイ目コイ科ダニオ亜科オイカワ属
俗称	ハヤ・ヤマベ・ジョロウブナ (関東)、ダイトウア (秋田)、ジンケン (秋田、長野、京都)、ハエ・シラハエ (♀)・アカバエ (関西、山口、高知)、ハス (大阪)、アサジ (中国)、ショウハチ (愛媛)
形態的な特徴	尻鰭が非常に大きく、オスのものは尾鰭基底部にその先端が届くほどである。産卵期にはオスは美しい婚姻色となり青地にオレンジ色の横帯が入り、吻部には追星ができる。このころの本種は川の上から見ても容易に識別できる。全長はオスの方が大きくなり、15cm ほどになる。
分布	現在はアユの放流に混じって北海道と琉球列島以外のほぼ日本全土に分布を広げたが、天然分布は北陸、関東地方以西の本州、四国の瀬戸内側、九州に生息するものであった。
繁殖行動	産卵期は5～8月で、岸よりの流れの緩やかな砂礫底に直径 30～50cm の産卵床を掘って産卵する。約2年で成熟する。
生息場所	河川の中・下流域および湖沼に生息する。産卵場としては砂礫底を好み、それ以外の生息場としては、季節や成長段階で異なるが河床状態よりも流速や水深が深く関係してくる。
食性	食性は生活環境や成長段階により異なり、付着藻類から水生昆虫、落下昆虫、底生動物、浮遊動物なども食べる。
生息環境への配慮事項	産卵環境よりも河川の流速や水深が生息環境として優占されるため、三面コンクリートの都市河川のような所でも、ある程度良好な水質と 30cm 程度の水深があれば生息できる。現に河川改修などで河床を浅く平坦に広げ、比較的流れの緩やかな水域がつくられると本種の生息には適することがある。短期間の河川改修では、河床が清掃されるので生息環境は改善されるが、砂礫底ではない都市河川のような三面コンクリート河川ではエサとなる動物類が少なく、ヘドロの蓄積した河床の水路では産卵場所に適していないため生息できない。このような水域では一時的に成魚が見られることはあるものの、エサもなく繁殖もできないため、いずれは他の水域へ移動してしまう。本来の自然護岸の河川のように様々な環境が組み込まれていることが望ましい。河床に起伏を持たせ淵や瀬を作ったり、玉石をおいて流れを変えることなどによりエサとなる動物の生息環境も用意することが必要だろう。また、近くに産卵場となるような河床をもった川がある場合は、それとの水域の連続性を配慮することが重要である。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	